

第57回

The Society of Comparative Integrative Medicine / Japan

比較統合医療学会・大会



伝統獣医学から
比較統合医療学へ
—比較統合医療の重要性と将来展望—

■ 開催日

平成28年7月2日 土・3日 日

■ 場 所

日本獣医生命科学大学 日本医科大学武蔵境校舎 E棟1階

伝統獣医学から 比較統合医療学へ

比較統合医療学会

The Society of Comparative Integrative Medicine/Japan

理事長 安川明男

Chair. Akio Yasukawa, D.V.M.

昨、平成 27 年 11 月 29 日（日）・第 56 回日本伝統獣医学会臨時総会の席上において日本伝統獣医学会は、比較統合医療学会とその会名変更が決議されました。今般会員各位にご案内する第 57 回大会が比較統合医療学会として開催する最初の学会となります。開催委員一同、充実した学会・大会となるべく、多くの皆様の御参加をお待ちしています。

さて本学会は、1990 年に獣医東洋医学研究会（本好茂一会長）として発足し、主に漢方薬の動物への応用を主題に会員各位の研究成果を御報告頂いておりましたが、1995 年、獣医東洋医学会（本好茂一理事長）と学会成りした頃から、鍼灸治療の動物への応用等がテーマとして加わり、更に 1998 年の日本伝統獣医学会（長谷川篤彦理事長）へ、会名変更が成された時期から現在まで上記の漢方、鍼灸に加えて、サプリメント、ホモトキシコロジー、オゾン療法、高濃度ビタミン C 投与療法、光線療法（レーザーを用いた LLLT や UltraViolet C の照射療法）、更に運動療法、Holistic 栄養学、音楽療法、アロマ精油を用いた抗菌・抗癌療法等、伝統医学の枠を超えた様々な分野から学会発表や論文投稿がされてきております。

近年、本学会以外にも伝統・伝承医学を研究する学会、研究会また補完代替医療を研究する学会、研究会が発足しておりますが、現代の潮流としては、各学会、研究会にも伝統・伝承医学は、補完代替医療の一分野として捉えられています。

本学会理事会でも「補完代替医療」については、2000 年頃から何度か議題に上がり議論されてきました。その際、伝統医学も補完代替医療の一分野であるとの考えから、本学会の名称を「補完代替獣医療学会」あるいは「獣医補完代替医療学会」と改称するべき！という意見も提出されました。しかし、当時の本学会理事会における意見の趨勢としては、我が国では漢方、鍼灸を中心とした医療が各地で施されていた処、江戸時代の末期になって西洋医学が導入された歴史を考え、西洋医学こそが「代替医療」であるとの考え方もありました。

「補完代替医療」とは現代の医学、医療を補い、完成させる医療であります。併しこの表現はあくまでも西洋医学による現代の医療を基盤とし、前提とした用語です。これに対し、東洋医学者各位は、西洋医学と東洋医学を同等の立場に見ず、即ち西洋医学の立場からのみの考え方から生まれた用語と捉え、異論を唱えた歴史があると考えられます。しかし、東洋医学の東洋という用語も中国では日本を示す言葉であると異論を唱えられます。その後、「アジア伝統獣医学会」という会名でアジアの学会が発足し、また本学会名が「獣医東洋医学会」から「日本伝統獣医学会」と改称された背景があります。

ここで再度念頭に置かなければならない事は、「補完代替医療」とは確かに西洋医学、または近代医療を補い完成させる医療ではありますが、あくまで西洋医学、近代医療が前提となって造語されております。しかし、補完代替医療は決して自然回帰を最終的な目的としているわけではなく、民間療法のみを目指した医療でもない事は明確です。

「私達の実施している医療は、替わりでも手伝いでもない！」という御意見も確かに正解ですが、“辞書も慣用に一步退く”とも言います、このあたりで用語への拘りを一時排し、現代の私達の実施する医療状況と我々を取り巻く医療環境に即応した統合的、総合的な医療を意味する学会名を提唱しようと考え、議論を重ねて来ました。

それでは、統合医療とは、何と何を統合しようと考えて造語された用語かということ、確かに西洋医学を基盤にした、現代の一般的な医療と補完代替医療を統合して・・・云々、という話になります。サプリメント、ホモトキシコロジー、栄養療法、運動療法、光線療法等、それぞれの項目を研究し、応用するのが補完代替医療であり、これらを現代の医療にどのように加え、併用するかを研究・応用するのが統合医療と考えて良いでしょう。

本学会では、これを更に発展的に、比較統合医療として、

- ・ヒトの医療と動物の医療
- ・現代医療と伝統医療を含む補完代替医療
- ・西洋医学と東洋医学
- ・全体的包括的医療と部分的個別的医療
- ・原因療法と対症療法

等様々な医療分野を比較、統合して考察、議論する事により、ヒトと動物の多くの医療分野に寄与する事を目的としています。ヒトと動物の多くの医療分野を統合して扱い、考察し、そこから新しい診断治療方法等が発見されていく事が強く望まれます。具体的な活動としては、動物の臨床例の紹介や獣医学に関する研究報告は、従来通り、いや、従来以上に、会員各位に積極的に行って頂き、これに加えてヒトの医療における臨床報告、研究報告も同時にして頂き、本学会がヒト医療と動物医療との情報交換の場となり、その差異をも含めて比較検討する事により、新しい医療上の知識と技術の発見や構築が出来る学会活動が出来れば各位の想定以上の Benefit と成り得る事と考えます。

第 57 回比較統合医療学会・大会（平成 28 年 7 月 2 日（土）～3 日（日）於：日本獣医生命科学大学）では、補完代替医療学会の鈴木信孝理事長（金沢大学 大学院 医薬保健学総合研究科 臨床研究開発 補完代替医療学講座 特任教授）と米国のオバマ政権における統合医療政策の顧問の役割を果たしてきた安西英雄先生（アンザイ・アンド・アソシエイツ代表）を招聘させて頂き、日本と米国の統合医療の現状と将来の展望について御講演頂きます。また、米国での動物の鍼灸治療の資格や技術について富岡美千子先生（北里大学大動物外科学）、岡田ゆう紀先生（日本獣医生命科学大学 獣医学教育推進室）に御講演をお願いしております。

開催委員各位は、ここで日本と米国の統合医療をも比較統合して、その長所、短所を考察し、短所を排し、長所は全て受け入れてしまおうという腹積もりなのです！？。

また会員各位に、一般演題を募集します。是非、多くの会員の方々だけでなく、会員外の方々もお誘い頂き、充実した学会・大会を開催したいと考えております。皆様の御発表と御参加を心より御待ちしています。

平成 28 年 4 月吉日

不尽

大会長ご挨拶

大会長 新井敏郎

Toshiro Arai

日本獣医生命科学大学

Nippon Veterinary and Life Science University Professor

今年度の学会・大会は、「比較統合医療学会」と名称を変更して初めての大会となります。本学会は獣医東洋医学、伝統獣医学など幾度かの名称の変遷を繰り返してきましたが、本学会の研究対象の主体となるハーブ医療、鍼灸医療などいわゆる東洋医学、相補・代替医療学領域の重要性が高まる国際的趨勢を勘案し、比較統合医療という名称に落ち着いたように思います。寿命延伸にともない、ガン、糖尿病、心血管系疾患など非感染性疾病 non-communicable diseases, NCD の発症が増え、こうした疾病の治療は、「治す」ことから「予防」にシフトしており、患者の心身全体を診る「原因療法」を中心とした伝統医学を含む相補・代替医療の重要性が急速に増えています。統合医学は、疾病の対症療法に重きを置いた近代西洋医学と慢性疾患の予防、予後の療養、未病対応など伝統医学、相補・代替医療の2つを統合することにより、両者の特性を最大限に活かし、一人一人の患者に最も適切な医療（オーダーメイド医療）を提供しようとするものです。動物でも寿命延伸に伴い、NCD の発生が著しく増加しており、獣医療においても統合医療を積極的に進めなければならない状況となっているのはヒトの医療と同様の状況にあります。

また、医学教育に追従する事約 10 年が経過し、日本の獣医学教育もグローバル化することが国際公約とされ、全国の 16 国公私立獣医系大学が協力してコアカリキュラムの作成・実施、共用試験導入、参加型臨床実習の導入、分野別第三者評価の実施などに向け、大学基準協会が作成した「獣医学教育に関する基準」の達成に向け改革事業を進めていますが、例えば学生 80 人定員に専任教員 73 名を置く、臨床施設面積 5000m² 以上を準備するなど、基準に示された表向きの数字の達成に気を取られ、グローバル化の本来の目的である日本独自の獣医学教育のレベルアップという視点からの改革の意識がぼやけているような気がしています。折角の改革の機会であるので、単なる欧米の獣医学教育システムの物まねにはしたくないと考えています。そうした視点から、日本独自の獣医学教育の切り札ともなりうるのが「比較統合医療」という学問領域ではないかと考えています。

今年度の大会では、金沢大学大学院 医学系研究科臨床研究開発補完代替医療学講座特任教授 鈴木信孝先生をお招きして、伝統獣医学から比較統合医療学へー比較統合医療の重要性と将来展望ーと仮題し、シンポジウムの開催を予定しています。このシンポジウムや一般演題での議論を通じて、統合医療とは何か、医学や獣医学教育での重要性、その将来展望について理解を深めていただければ幸いです。医学、獣医学、薬学、疾病予防学、看護学など比較統合医療に関わる学問は大きく広がります。また、比較統合医療の発展には基礎研究から臨床研究まで幅広い検証成績の積重ねが必要です。

本学会・大会が、医学と獣医学の壁を切り開き、比較統合医療の幕開けとなることを期待しています。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

比較統合医療学会第57回大会開催要項

【開催日】平成28年7月2日（土）、3日（日）

【場 所】日本獣医生命科学大学 日本医科大学武蔵境校舎 E棟 1階
東京都武蔵野市境南町 1-7-1

【テーマ】伝統獣医学から比較統合医療学へ - 比較統合医療の重要性と将来展望 -

【大会長】新井敏郎（日本獣医生命科学大学）

【参加費】会員：7,000円 非会員：10,000円 学生：無料
（事前登録〈学生は除く〉の場合、昼食付／別紙参加申込書でお申込み下さい）

■ 7月2日（土）

大会長挨拶 [13:00～13:10]

13:00～15:00 講演『米国における統合医療事情（仮）』

安西英雄先生（アンザイ・アンド・アソシエイツ代表）

15:00～16:00 ブース見学

17:00 一日目終了

■ 7月3日（日）

9:00～11:00 シンポジウム『統合医療の発展とその展望（仮）』

鈴木信孝先生（金沢大学大学院医学系研究科臨床研究開発補完代替医療学講座）

11:10～11:40 『アメリカの針診療の資格取得のシステムについて（Chi institute）』

大動物に関して：富岡美千子先生（北里大学大動物外科学）

小動物に関して：岡田ゆう紀先生（日本獣医生命科学大学獣医学教育推進室）

12:00～13:30 ブース見学

13:40～ 一般講演・ポスター発表

優秀発表賞の発表

総会

17:00（予定） 閉会

※プログラムは変更することがあります。今後の詳細については決定次第、ホームページ（<http://www.h5.dion.ne.jp>）に掲載いたします。是非ご参照ください。

一般演題募集

一般演題を募集します。演題は自由です。1題、質疑応答含めて15分、6題を予定しています。併せてポスター発表も募集します。

演題名、発表者氏名、所属、口演・ポスター発表いずれかの希望、を明記の上、Microsoft Wordで作成した要旨（下記抄録作成要領参照）とともに下記メールアドレス宛てご応募下さい。

● 演題受付：E-mail shoroku@jstvm.jp ● 応募締切：平成28年5月27日（金）

抄録作成要領

- a) 抄録は、Microsoft Wordで作成の上、メール添付にてお送りください。本文は、横書きで1行の字数は23文字とし、2段組みにしてください。演題、お名前、所属のあとはそれぞれ1行あけてください。演題、お名前、所属はすべて英文も付記して下さい。英数字などの半角文字は2字を全角1字相当とします。なお、省略単位文字等の特殊文字、また環境依存文字は使用しないでください。ギリシア文字は外字パレットから選んで使用してください。
- b) 演題（タイトル）、抄録本文の形式は、作成見本をご参照ください。A4・1頁内で作成してください。
- c) 本文に図・表の掲載も可能です。本文には「(図1)」「(表2)」のように引用してください。
- d) 抄録受付のメールアドレスは、事務局（抄録受付）：shoroku@jstvm.jpです。E-mail 末尾には、お名前、連絡先ご住所、電話番号ならびにE-mailアドレスを明記してください。
- e) 応募及び抄録締切 平成28年5月27日（金）
- f) 講演に際しては、PCプロジェクターを1台ご用意しております。USBあるいはCDでデータをご持参下さい。PCはWindowsをご用意致しますが、Macの場合はご自身のPCをお持ち下さい。

その他ご不明の点は、下記までお問い合わせください。

比較統合医療学会（旧日本伝統獣医学会）事務局

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 2-9-19

TEL 03-5915-5308

FAX 03-5915-5319

E-mail info@jstvm.jp